

# 『栃尾市鳥瞰図』について

## Study on “Tochio-shi-cyoukanzu”

平山 育男  
HIRAYAMA Ikuo

キーワード：鳥瞰図、吉田初三郎、栃尾市  
Keywords : birds-eye view, YOSHIDA Hstsusaburou,  
Tochio-city

### 1 はじめに

昨年度の紀要において、現在は越後交通がいずれも所有する吉田初三郎画による『栃尾電鉄 沿線景勝観光鳥瞰図』、『中越自動車 交通路線景勝鳥瞰図』2作の制作年代を始め、制作の背景について考察を試みた<sup>1</sup>。本稿では、この2作を追う過程で入手した『栃尾市鳥瞰図』について考察を加えるものである。

本資料は印刷物であるが、吉田初三郎の印刷折本の作品目録<sup>2</sup>には未掲載のものである。本稿では本鳥瞰図について内容の紹介を行い、その検討から制作年代と背景などを考察するものである。

### 2 『栃尾市鳥瞰図』について

『栃尾市鳥瞰図』は、表紙と折込みからなるもので、いずれも両面に印刷が施されている。表紙表面を図1、表紙裏面を図2、折込み表面を図3、折込み裏面を図4として原寸大で示し、折込み表面のみ図5として文字情報を中心に書き起こした。なお、図5ではこの鳥瞰図が後述するように幅100mm程で5分割して折られているため、向って左から「A」「B」「C」「D」「E」、上下に2等分して上から「1」「2」と区画した。このため、以下では具体的な地名などの位置をこの記号で□囲みで適宜示すこととする。

#### ・大きさと体裁

表紙の大きさは横250mm、縦268mmの厚紙である。表紙表面は縦に2等分して山折としたもので、広げた時の向って左側を表紙、右側を裏紙とし、表紙裏面の向って左側に折込みの鳥瞰図が添付され、表紙裏面内部に折り込まれる形式となる。表紙表は赤、黄、緑、黒を用いたカラー印刷とする。表紙裏は写真とキャプションは茶、文字は黒の印刷とする。

折込みの全体の大きさは横524mm、縦253mmである。鳥瞰図の印刷される表側で見ると、向って左側から順に幅103mmで山折り、100mmで谷折り、100mmで谷折り、104mmで谷折り、106mmで谷折りとして11mmの裏面を表紙へののりしろとするものである。折込み表面はカラー印刷で、折込み裏面は表紙裏面と同様の印刷とする。

#### ・内容

表紙表面は全体に隅丸の四角形が黄緑色で大きく描かれ、この中に向って右上から左下にかけて同色で8本の線が引かれる。この線の間を上から、赤、黄緑、黄色、赤+黄緑で淡く彩色し表紙側に上から女兒、男児、女性、裏表紙側に女性、女性、女兒のスタイル画を淡彩で描く。そして表紙側隅丸四角内部上中央にひらがなで「とちお」と筆書き、下の四角下に「栃尾市・栃尾織物工業協同組合」、裏表紙側向って右下の四角下に寄せて

「京都祇園観光社作品」といずれもゴシックの活字で記される。

表紙裏面は、10枚の写真と45行の文章が印刷される。写真はキャプションにより向って右上から右下に「栃尾織物工業協同組合」、「製織工程」、「染色工程」、「撚糸工程」、向って左上から下へ「栃尾織物整染株式会社」、「一流デパートを飾る／栃尾織物」(2枚)<sup>3</sup>、「織物求評会」、「求評会ガーデンパーティー」、「繊維まつり」となる。なお写真の形は「染色工程」が楕円となる以外はいずれも長方形とする。下部に記される文章は表紙裏となる向って右側に30行の「沿革」、裏表紙裏となる向って左側に「繊維まつり」について14行が記される。

折込みでは表面が「栃尾市鳥瞰図」となる。E1部分向って右上、青地に白文字で「栃尾市鳥瞰図」と縦書きがあり、A2～B2下に「著作権者 京都市祇園 吉田初三郎 版權所有者 観光社」と緑色の文字で横書きされる。全体を黄色の背景としてこの内側の横420mm×縦220mm黒枠内に鳥瞰図を描き、E1部分に「栃尾／市／鳥瞰／図／初三郎作印」と記す。鳥瞰図は刈谷田川と西谷川が合流する栃尾市街地を中央に東側から眺めている。そして刈谷田川の源流となる守門岳を向って左上に配し、蛇行する上記二筋を象徴的に描き、画面向って右上に合流する信濃川、五十嵐川、そして日本海と佐渡を描く。鉄道は当時の国鉄線が青線で信越本線、上越線、越後線、飯山線、羽越本線、只見線、弥彦線が描かれる。私鉄では栃尾電鉄が朱色の線でE1悠久山－E1長岡－E1上見附－D2栃尾駅の区間が記され、当時予定線とされていたE1上見附－E1見附間実線で示される。なお、栃尾電鉄でE2明晶とE2太田間に設けられた駅の名前は「本明」であるが、鳥瞰図では「東明」と誤記されている。また、来迎寺からの長岡鉄道は記載が無い。町並みでは栃尾市街が克明に描かれ、特にC1市役所、B1織物工業協同組合やC1栃尾小学校、B1栃尾中学校、C2栃尾高校、C1栃尾郷立病院、C1警察署、C1郵便局、B1秋葉三尺坊等、特色ある建物の輪郭まで描き分けられている。また、町中に位置する繊維関係を中心とする工場群も幾つかは建物の外形までを細かく描いている。周辺では、特に守門岳麓に位置する、B1道院池周囲のB1キャンプ場、B1ヒュッテ、B1道院スキー場が詳しく描かれている。

折込み裏面は「A」「B」「C」側と「D」「E」側で2本線の枠で囲み、向って右側となる「A」「B」「C」側には写真10枚とその解説が入る。上段向って右より「秋葉公園」13行、「舞鶴公園」6行、「法華塔」7行、「大名行列」21行、下段「布滝」8行、「栃堀町裸押合い祭り」8行、「栃倉遺跡」10行(写真2枚)、「錦鯉」8行、「石積」7行とする。向って左側となる「D」「E」側では写真6枚で、向って左下に山岳地の地図が二重枠で入る。上段に「雪のパラダイス峠よりみたる守門山」、向って右上より「道院池」、「道院池とキャンプ場」、「お花畑」、「夏の守門山」、「日本一と言はれる大雪庇」、そして「登山口」17行、「守門山」28行が入る。

#### ・鳥瞰図の構成

鳥瞰図ではほぼ中央にC1「市役所」、C1「鶴城山」を配し、守門川上流部上空に鳥瞰図の視点を据えて町並み全体を見通すものとなっている。画面下側に越後山地から連なる山々、向って左側に守門岳を描き、ここからなだらかに山並みが下って画面中段に東山、奥に色を変えて西山の山並み、更に向って右側にやや誇張を利かせて直江津、柏崎、弥彦、三条、新潟と日本海、佐渡を描き込んでいる。なお、特に中央に位置する栃尾の町並みと守門山中腹の道院池周辺を詳細に描く点を特徴とみることもできる。

#### ・鳥瞰図における文字表記の方法

本鳥瞰図では文字及びこの囲み枠はいずれも黒線とする。

枠内を黄色で長方形枠とするのが唯一、**[B1]**織物工業協同組合で、この組合が栃尾市とともにこの鳥瞰図依頼者であることを強く物語る。水色地となるのが長方形枠の**[C1]**「市役所」と長丸形枠**[D2]**栃尾駅である。朱色地はいずれも長方形枠で**[B2]**道院池、**[C1]**西谷ラインと**[C1]**秋葉神社が見られる。薄朱色地も全てが長方形枠で**[A1]**守門山岳、**[A1]**丸山、**[A1]**布滝、**[A1]**桑代山、**[A1]**法華塔スキー場、**[B1]**ヒュッテ、**[B1]**キャンプ場、**[B1]**七曲り、**[B1]**秋葉三尺坊、**[B1]**常安寺、**[B1]**十二山社、**[B2]**白山神社、**[B2]**長福寺、**[B2]**栃倉遺跡、**[C1]**高野山、**[C1]**太平山、**[C1]**五百山、**[C1]**諏訪神社、**[C1]**宝光坊、**[C1]**長峰スキー場、**[C2]**善昌寺、**[D1]**中山神社、**[D1]**稚児清水川の23箇所となり、いずれも山岳、観光地、社寺などを示す。この他は大多数が白地で、長丸形枠は**[A1]**で小向、栃堀、菅畑、本所、入塩川、ワサビ谷など原則的に地名を示す。一方、白地の長方形枠は**[A1]**で守門山登山口事務所、中島屋旅館、大島旅館、**[B1]**で倉寅織物など、主に固有名詞を示すようであるが、**[D1]**及び**[E1]**では至大阪が長丸形枠、至東京、至長野が長方形枠で、至大白川、至会津、至長沢が枠無しとなる。また、佐渡、弥彦は地名であるものの長方形枠となる。そして、少数であるが枠無し表記がある。**[B2]**刈谷田川、平橋、**[C1]**大布橋、備橋、新金橋、**[C2]**刈谷田橋、**[D1]**松葉橋、**[D2]**西谷川、**[E1]**信越線、前述の**[D1]**至東京、至大白川、**[E1]**至会津、そして栃尾電鉄における**[E1]**椿沢、**[E2]**明昌、東明、太田、上北谷各駅名である。枠無しは河川名、橋梁名、鉄道路線名、鉄道路線行き先、栃尾電鉄における幾つかの駅名に用いられたことが分かる。

### 3 『栃尾市鳥瞰図』の発行年代

この資料には、表紙、折込みも含めて制作の年代が描かれていない。そのため、鳥瞰図の記載内容などを検討することでこの考察を進めて行きたい。

この考察を進めるため鳥瞰図に記される全ての文字情報を中心として図5に書き起し、文字情報の全てを表1に整理した。これらを参考に、鳥瞰図の制作年代を考えて行くが、先ずおおよその見当として制作年代の特定をしておきたい。

第1に、この図が『栃尾市鳥瞰図』とあることから、その上限は栃尾が市制を敷いた昭和29(1954)年6月1日<sup>4</sup>とすることができる。一方、図に記される「栃尾電鉄」の名称は図の制作年代を考える上では重要である。同社はもともと「栃尾鉄道」の名称で大正4(1915)年2月に開業した<sup>5</sup>ものであるが、昭和31(1956)年11月20日、全線の電化を受けて社名を「栃尾電鉄」と改め<sup>6</sup>、更に昭和35(1960)年10月1日には長岡鉄道、中越自動車と合併をしたため「越後交通」と名称を改めている<sup>7</sup>。則ち、これらの事実が図中において正確に反映されているとすれば、この図の制作年代は「栃尾電鉄」を巡る二つの年代、則ち昭和31(1956)年から昭和35(1960)年の間と、大まかには考えることができるのである。なお、裏表紙裏「繊維まつり」には、この祭が“市の最大の行事であり戦后十数年続けて行はれている”とする点も、制作時期を考える手立てとなるだろう。

さて、この制作年代をより狭める情報はないだろうか。図中には42工場が記される。逐次の状況を示す資料は手元にはないが、参考までに昭和40(1965)年刊行の『栃尾市商工名鑑』<sup>8</sup>により、工場の住所、職種、正式名称を表2に挙げておいた。

なお、鉄道の敷設状況を概観しておくとき当時の国鉄では、信越本線、上越線、越後線、飯山線、羽越本線が描かれ、只見線は**[D1]**至大白川とされ同駅までの開通と考えることができ、昭和30(1955)年頃の様子をよく示す。弥彦線は下田側が**[E1]**至長沢とあるが、これは戦後すぐ昭和21(1946)年再開の姿を伝える。なお、来迎寺からの長岡鉄道及び魚沼線は記載がないものと考

えるべきであろう。栃尾電鉄は**[E1]**悠久山-**[E1]**長岡-**[E1]**上見附-**[D2]**栃尾駅の全線が描かれ、**[E1]**上見附-**[E1]**見附の予定線<sup>9</sup>も実線で描かれる。既述した駅名の誤記をのぞけば、当時の様子を矛盾なくよく伝えはするが、これらに制作年代を限定する情報はない。

市の施設を見ると、この時期における変更などを幾つか見ることが出来る。まず、守門山麓に描かれる**[B1]**ヒュッテは、昭和31(1956)年10月の完成である<sup>10</sup>。併せて、**[B1]**栃尾中学では同時期、校舎が完成を見ている<sup>11</sup>が、いずれも鳥瞰図に描かれる情報と矛盾はない。一方、**[C1]**郵便局が新局舎へ移ったのは昭和40(1965)年12月<sup>12</sup>であり、鳥瞰図では向かいの旧庁舎が郵便局となっている。**[C1]**栃尾郷立病院の新築は昭和39(1964)年9月<sup>13</sup>であり、図では古い木造の建物となっている。**[C1]**市役所は昭和33(1958)年1月に増築庁舎が完成し<sup>14</sup>、これにより庁舎はL字形平面となるが、鳥瞰図では矩形ではなく、1列型平面のままである。**[C1]**栃尾小学校では昭和33(1958)年8月にプールが完成している<sup>15</sup>が、これは図に描かれていない。これらから、鳥瞰図に昭和31(1956)年までの情報は漏れなく描かれるものの、昭和33(1958)年以後のものは記載の無いことが分かるだろう。さて、更に制作時期を狭める情報として、**[D2]**栃小中道分校の記載が挙げられる。同校の中道校として明治10(1877)年創立の歴史を持った<sup>16</sup>が、これが栃小、則ち栃尾小学校分校となったのは昭和32(1957)年4月のことである。ところが同校は、翌昭和33(1958)年3月には廃校となっているのである<sup>17</sup>。即ち、図では栃小中道分校が存在した昭和32(1957)年4月から昭和33(1958)年3月の情景を描いたとすることができるわけであるが、この範囲は上述した情報と照らし合わせても、矛盾するものではない。

### 4 『栃尾市鳥瞰図』にみる昭和32(1957)年の栃尾

戦後期、栃尾の繊維業を概観し、本鳥瞰図が示す昭和32(1957)年における栃尾の街並みの特徴を拾い出してみたい。

戦後の栃尾では従来の縮緬織物から、昭和23(1948)年頃からはいち早く服地、人造繊維であるフス織物<sup>18</sup>に取り組み、昭和30(1955)年頃からは化合繊維織へと移行している<sup>19</sup>。樹脂加工では昭和29(1954)年の不況もあり、組合協同の整理樹脂加工工場から昭和31(1956)年4月、栃尾織物整染株式会社を設けるに至っている<sup>20</sup>。即ち、表紙裏で、一企業に過ぎない同社が、栃尾織物工業協同組合と並んで写真が掲載されるのはそのためであろう。一方、栃尾ではその後、量産地への転換が大規模に進み<sup>21</sup>、昭和32(1957)年頃からは一層の設備近代化<sup>22</sup>へと邁進し、昭和35(1960)年頃からは輸出へと大きく傾くこととなったのである<sup>23</sup>。

このように見ると昭和32(1957)年の栃尾は、化合繊維織へ業界としても大きく舵を切りつつも、未だ海外への輸出、機械の自動化も進んでいない時期であったと言える。それではこれらの姿は鳥瞰図にはどのように描かれるのであろうか。

図では**[B2]**中甚織物、**[D1]**協和織物、**[D1]**下藤織物など、複数棟の建物からなる工場が数々描かれるもの、いずれも屋根は傾斜を持たせた切妻風で、3階以上の高層で描かれものはほとんど見ることができない。また、刈谷田川右岸にも工場群も未だ進出はしてはいない。

以上より、この時期の栃尾は多く戦前期以来の木造工場が数多くあり、鳥瞰図ではこれが鉄筋コンクリート造で多層階の建物に建て替わる以前の様子をよく示すものと言える。

### 5 吉田初三郎と『栃尾市鳥瞰図』

初三郎は昭和30(1955)年8月16日に没している。しかし、

この鳥瞰図が昭和 32(1957)年頃の景観を示すという点はどのように考えればよいのであろうか。この点について、前稿では鳥瞰図の版權を所有する観光社社長であった初三郎息子の阿瀬庄太郎が初三郎の死後も、初三郎の養子であった朝太郎に依頼して鳥瞰図の制作を続けたことを紹介した。恐らく本図もそのような過程を経て制作がなされたと考えるのが妥当であろう。

## 6 さいごに

以上から、吉田初三郎制作『栃尾市鳥瞰図』の考察は次のようにまとめることができよう。

- 1) 『栃尾市鳥瞰図』は昭和 32(1957)年 4 月から昭和 33(1958)年 3 月の情景を示しており、この時期の制作と考えることができる。
- 2) 『栃尾市鳥瞰図』には戦前期以来の木造工場が数多くあり、鉄筋コンクリート造で多層階の建物に建て替わる以前の栃尾の町並みの様子をよく示す。
- 3) 昭和 32(1957)年に吉田初三郎は既に没しており、本図は初三郎の養子に当たる朝太郎の制作に関わるものと考えることができる。

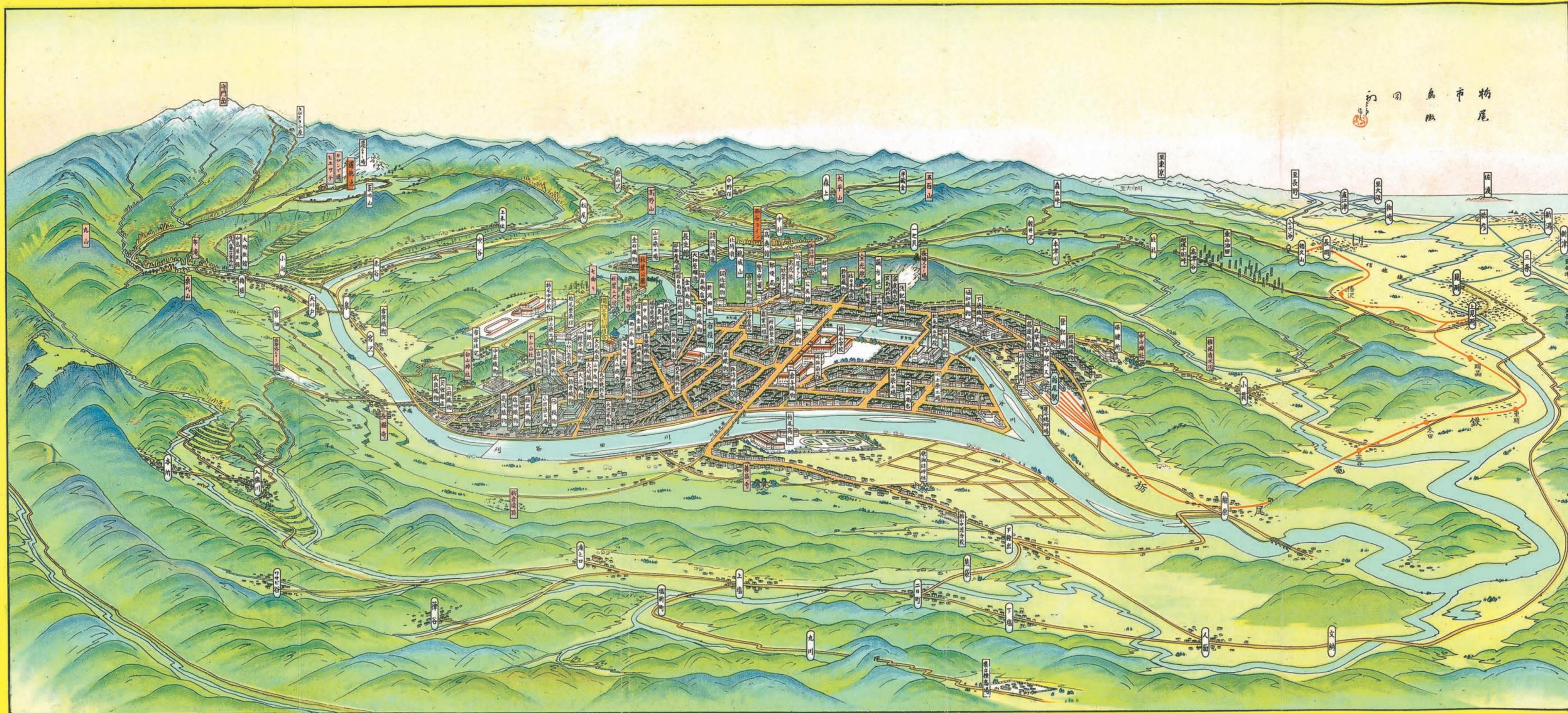
---

## 注 記

- 1 平山：『栃尾電鉄 沿線景勝観光鳥瞰図』について、『中越自動車 交通路線景勝鳥瞰図』について、長岡造形大学紀要 6、47 - 56 頁及び 57 - 66 頁、平成 21(2009).3
- 2 吉田初三郎研究プロジェクト、編纂 + 図版解説 = 芳賀直樹：初三郎鳥瞰図を探す、別冊太陽 大正・昭和の鳥瞰図師吉田初三郎のパノラマ地図、125 ~ 136 頁、平凡社、平成 4(2002).10
- 3 「/」は改行を示す。以下同様。
- 4 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、491 頁、昭和 55(1980).3
- 5 越後交通株式会社：越後交通社史、246 頁、昭和 60(1985).10
- 6 越後交通株式会社：越後交通社史、267 頁、前掲
- 7 越後交通株式会社：越後交通社史、3 ~ 13 頁、前掲
- 8 栃尾市：栃尾市商工名鑑、昭和 44(1969).5
- 9 越後交通株式会社：越後交通社史、273 頁、前掲
- 10 栃尾市：広報とちお 2、2 頁、昭和 31(1956).11
- 11 栃尾市：広報とちお 2、1 頁、前掲
- 12 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、478 頁、前掲
- 13 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、665 頁、前掲
- 14 栃尾市：広報とちお 16、2 頁、昭和 33(1958).1
- 15 栃尾市：広報とちお 23、1 頁、昭和 33(1958).8
- 16 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史中巻、81 頁、昭和 54(1979).3
- 17 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、524 頁、前掲
- 18 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、403 頁、前掲
- 19 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、400 ~ 401 頁、前掲
- 20 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、408 ~ 409 頁、前掲
- 21 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、584 頁、前掲
- 22 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、587 頁、前掲
- 23 栃尾市史編纂委員会：栃尾市史下巻、584 頁、前掲



栃尾市鳥瞰圖

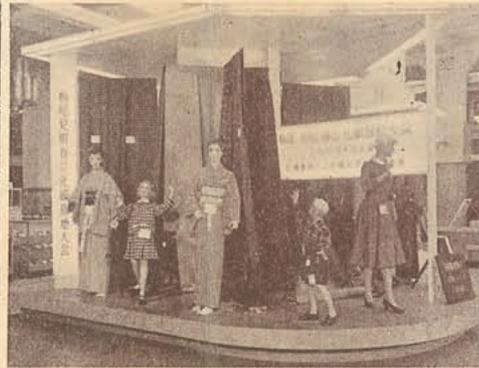


著作権者 京都市紙園 吉田 初三郎 版權所有者 觀光社

栃尾織物整染株式会社

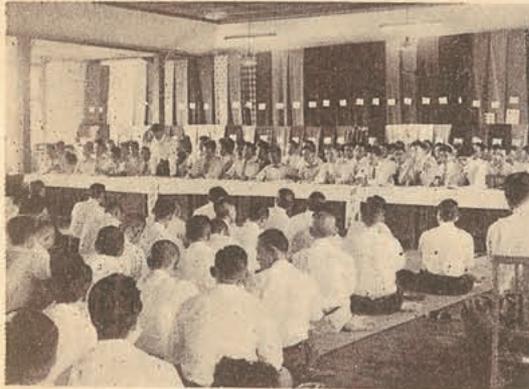


栃尾織物工業協同組合

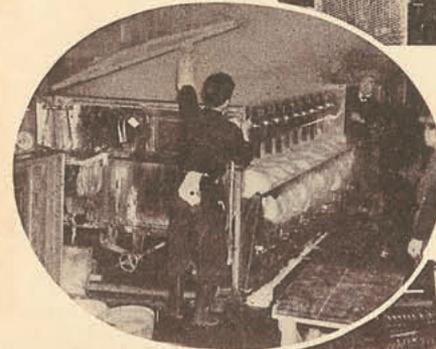


一流デパートを飾る  
栃尾織物

製織工程



織物求評会

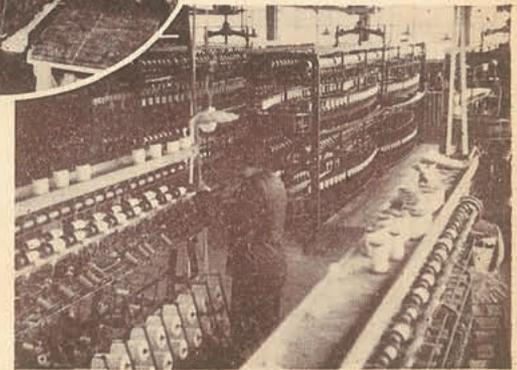


染色工程



求評会ガーデンパーティー

織維まつり



燃糸工程

### 沿革

越の国は古事記にも見えて古志郡はその遺名であらう。此の地方を高志と称せし時代より土民の間に一種の織物が製造されたのであらうが詳かでない。口碑の伝ふる所に提れば景行天皇の御宇、垂仁天皇の皇子五十日帯彦命を高志の国造に任じ給ふた命は御妃刈谷田力弁姫を伴ひ栃織の里（現在栃尾市栃尾町）に宮居され天然の繭を採り来り糸を織り創め給ふた。これが栃尾糸の濫觴だと伝えられている。中世足利尊氏の時代に白糸を製織した事が文献にも表れているが斯業萎靡して振はず天文年間上杉家の領となるや復興の氣運を得た。天明年間栃尾の植村角左エ門は郷民に蚕桑機織の道を奨励したので之により糸織物の生産熾然として興り全国的に知られた栃尾糸の産地となつた。戦前は之に白生地縮緬を以て絹織物の持つ技術を大衆織物に生かして来た。終戦後は他産地に先んじて化繊織物を製織しその処理加工の進歩によつて羊毛に見る事の出来ない独自の境地を確立して新しいセシスと素晴らしい技術によつて己に織維界をリードしつゝある。

### 織維まつり

毎年七月に市の主要産業である織物の発展を祝つて全市を挙げての盛大な行事である。前夜祭を皮切りに華々しく幕を開くが織物業者は東京、京阪各地から織物商社数社を招き秋冬物の織物求評展示会を催し各町内、各従業員にそれぞれ趣向をこらした仮装行列や仁和置流しが威勢よく町に繰り出し、夜空にはスターマインを初め大小数百発の煙火大会で涼を求める見物客でゴッタ返す程の市の最大の行事であり戦后十数年続けて行はれている。

おちと

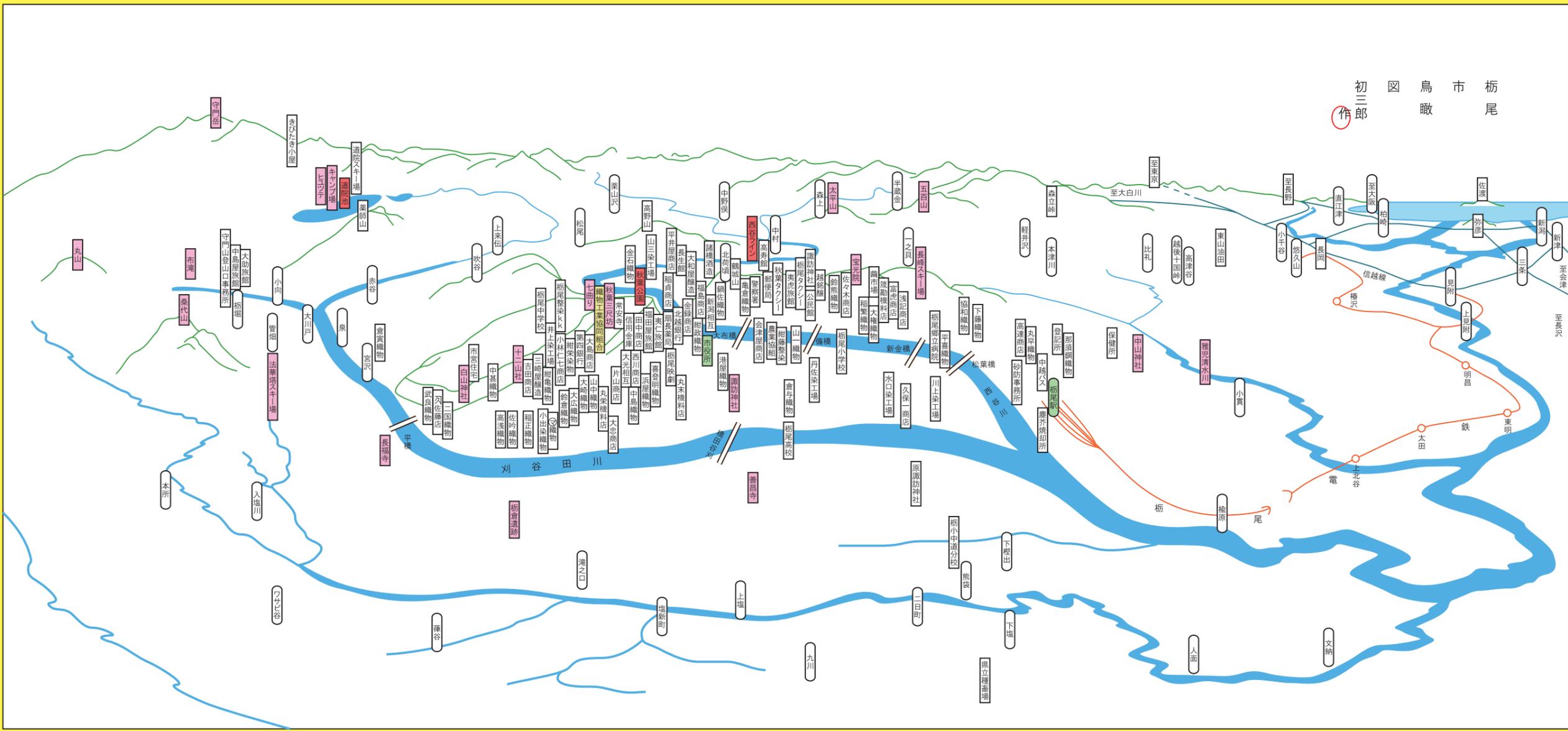


栃尾市・栃尾織物工業協同組合

京都祇園観光社作品

初三郎 鳥瞰 市 栃尾

A 山折 B 谷折 C 山折 D 谷折 E



著作権者 京都市祇園 吉田初三郎 版權所有者 観光社

表1 『栃尾市鳥瞰図』に見られる記載

番号	位置	名称	種類	形と色	備考	出典	
1	A	1	守門岳	山岳	□		
2	A	1	丸山	山岳	□		
3	A	1	布滝	瀑布	□		
4	A	1	守門山登山口事務所	施設	□		
5	A	1	中島屋旅館	旅館	□		
6	A	1	大助旅館	旅館	□		
7	A	1	小向	地名	○		
8	A	1	栃堀	地名	○		
9	A	1	桑代山	山岳	□		
10	A	1	菅畑	地名	○		
11	A	2	法華塔スキー場	施設	□		
12	A	2	本所	地名	○		
13	A	2	入塩川	地名	○		
14	A	2	ワサビ谷	地名	○		
15	B	1	きびたき小屋	施設	□		
16	B	1	道院スキー場	施設	□		
17	B	1	ヒユツテ	施設	□	昭和31(1956)10/31完成	広報とちお2
18	B	1	キャンプ場	施設	□		
19	B	1	道院池	施設	□		
20	B	1	薬師山	山岳	□		
21	B	1	栗山沢	地名	○		
22	B	1	松尾	地名	○		
23	B	1	上來伝	地名	○		
24	B	1	吹谷	地名	○		
25	B	1	赤谷	地名	○		
26	B	1	大川戸	地名	○		
27	B	1	泉	地名	○		
28	B	1	宮沢	地名	○		
29	B	1	倉寅織物	工場	□		
30	B	1	七曲り	地名	□		
31	B	1	秋葉三尺坊	社寺	□		
32	B	1	栃尾中学校	施設	□	昭和31(1956)10/31新校舎完成	広報とちお2
33	B	1	栃尾整染KK	工場	□	昭和31(1956)4設立	市史下p409
34	B	1	織物工業協同組合	施設	□		
35	B	1	井上染工場	工場	□		
36	B	1	第四銀行	金融機関	□		
37	B	1	市営住宅	施設	□		
38	B	1	十二山社	社寺	□		
39	B	1	紺染織物	工場	□		
40	B	1	大島商店	商店	□		
41	B	2	白山神社	社寺	□		
42	B	2	中甚織物	工場	□		
43	B	2	吉田商店	商店	□		
44	B	2	三崎屋醸造	工場	□		
45	B	2	紺亀織物	工場	□		
46	B	2	小林仁七商店	商店	□		
47	B	2	片山商店	商店	□		
48	B	2	大崎織物	工場	□		
49	B	2	山中織物	工場	□		
50	B	2	長福寺	社寺	□		
51	B	2	武良織物	工場	□		
52	B	2	刃佐藤店	工場	□		
53	B	2	二国織物	工場	□		
54	B	2	高浅織物	工場	□		
55	B	2	佐吟織物	工場	□		
56	B	2	稲正織物	工場	□		
57	B	2	小出染織物	工場	□		
58	B	2	◎織物	工場	□		
59	B	2	鈴倉織物	工場	□		
60	B	2	大広織物	工場	□		
61	B	2	丸染機料店	商店	□		
62	B	2	大忠商店	商店	□		
63	B	2	平橋	橋梁	-		
64	BC	2	刈谷田川	河川	-		
65	B	2	栃倉遺跡	史跡	□		
66	B	2	滝之口	地名	○		
67	B	2	葎谷	地名	○		
68	C	1	高野山	山岳	□		

69	C	1	中野俣	地名	○		
70	C	1	森上	地名	○		
71	C	1	太平山	山岳	□		
72	C	1	半蔵金	地名	○		
73	C	1	五百山	山岳	□		
74	C	1	西谷ライン	名勝	□		
75	C	1	中村	地名	○		
76	C	1	一之貝	地名	○		
77	C	1	金石織物	工場	□		
78	C	1	山三染工業	工場	□		
79	C	1	長生館	旅館	□		
80	C	1	諸橋酒造	醸造	□		
81	C	1	北荷頃	地名	○		
82	C	1	高寿館	旅館	□		
83	C	1	平井屋商店	商店	□		
84	C	1	稲貞商店	商店	□		
85	C	1	金録商店	商店	□		
86	C	1	大和屋醸造	醸造	□		
87	C	1	福島商店	商店	□		
88	C	1	新潟相互	金融機関	□		
89	C	1	鍋佐織物	工場	□		
90	C	1	鶴城山	史跡	□		
91	C	1	亀倉織物	工場	□		
92	C	1	警察署	公共機関	□		
93	C	1	郵便局	公共機関	□	昭和 40 (1965) 12 新局舎完成	市史下 p478
94	C	1	秋葉タクシー	交通	□		
95	C	1	夷虎旅館	旅館	□		
96	C	1	栃尾タクシー	交通	□		
97	C	1	諏訪神社	社寺	□		
98	C	1	越銘醸	醸造	□		
99	C	1	公民館	公共機関	□		
100	C	1	鈴熊織物	工場	□		
101	C	1	佐々木商店	商店	□		
102	C	1	宝光院	社寺	□		
103	C	1	稲繁織物	工場	□		
104	C	1	繭市場	公共機関	□		
105	C	1	大権織物	工場	□		
106	C	1	箆勘機料店	商店	□		
107	C	1	富寅商店	商店	□		
108	C	1	浅記商店	商店	□		
109	C	1	長峰スキー場	施設	□		
110	C	1	秋葉公園	公園	□		
111	C	1	常安寺	社寺	□		
112	C	1	西川商店	商店	□		
113	C	1	信用金庫	金融機関	□		
114	C	1	田中商店	商店	□		
115	C	1	福田屋旅館	旅館	□		
116	C	1	夷仁旅館	旅館	□		
117	C	1	扇長薬局	商店	□		
118	C	1	北越銀行	金融機関	□		
119	C	1	紺政織物	工場	□		
120	C	1	市役所	公共機関	□	昭和 33 (1958) 1, 増築庁舎完成	広報とちお 16
121	C	1	大布橋	橋梁	-		
122	C	1	会津屋商店	商店	□		
123	C	1	農業協組	公共機関	□		
124	C	1	紺藤整染	工場	□		
125	C	1	山一織物	工場	□		
126	C	1	備橋	橋梁	-		
127	C	1	栃尾小学校	学校	□	昭和 33 (1958) 8, プール完成	広報とちお 23
128	C	1	新金橋	橋梁	-		
129	C	1	栃尾郷立病院	公共機関	□	昭和 39 (1964) 9 新築	市史下 p665
130	C	1	平喜織物	工場	□		
131	C	2	大光相互	金融機関	□		
132	C	2	中島織物	工場	□		
133	C	2	浜屋織物	工場	□		
134	C	2	喜登朋織物	工場	□		
135	C	2	栃尾映劇	映画館	□		
136	C	2	丸末機料店	商店	□		
137	C	2	港屋織物	工場	□		
138	C	2	諏訪神社	社寺	□		
139	C	2	倉与織物	工場	□		

140	C	2	丹佐染工場	工場	□		
141	C	2	水口染工場	工場	□		
142	C	2	久保一商店	商店	□		
143	C	2	川上染工場	工場	□		
144	C	2	刈谷田橋	橋梁	-		
145	C	2	栃尾高校	学校	□		
146	C	2	善昌寺	社寺	□		
147	C	2	原諏訪神社	社寺	□		
148	C	2	塩新町	地名	○		
149	C	2	上塩	地名	○		
150	C	2	九川	地名	○		
151	C	2	二日町	地名	○		
152	D	1	至東京	地名	-		
153	D	1	至大白川	地名	-		
154	D	1	森立峠	峠	□		
155	D	1	軽井沢	地名	○		
156	D	1	本津川	地名	○		
157	D	1	比礼	地名	○		
158	D	1	越後十国峠	峠	□		
159	D	1	高津谷	地名	○		
160	D	1	東山油田	施設	□		
161	D	1	松葉橋	橋梁	-		
162	D	1	協和織物	工場	□		
163	D	1	下藤織物	工場	□		
164	D	1	高遠商店	商店	□		
165	D	1	丸早織物	工場	□		
166	D	1	登記所	公共機関	□		
167	D	1	那須鋼織物	工場	□		
168	D	1	保健所	公共機関	□		
169	D	1	中山神社	社寺	□		
170	D	2	西谷川	河川	-		
171	D	2	砂防事務所	公共機関	□		
172	D	2	中越バス	交通	□		
173	D	2	栃尾駅	栃尾電鉄駅	○		
174	D	2	塵芥焼却場	公共機関	□		
175	D	2	稚児清水川	河川	□		
176	D	2	小貫	地名	○		
177	D	2	楡原	地名	○		
178	D	2	栃小中道分校	学校	□	昭和 32 (1957) 年分校、翌年廃止	市史下 p524
179	D	2	下櫻出	地名	○		
180	D	2	熊袋	地名	○		
181	D	2	下塩	地名	○		
182	D	2	人面	地名	○		
183	D	2	県立種畜場	公共機関	□		
184	E	1	至長野	地名	□		
185	E	1	直江津	国鉄駅	○		
186	E	1	至大阪	地名	○		
187	E	1	柏崎	国鉄駅	○		
188	E	1	佐渡	地名	□		
189	E	1	弥彦	国鉄駅	□		
190	E	1	新潟	国鉄駅	○		
191	E	1	小千谷	国鉄駅	○		
192	E	1	長岡	国鉄駅	○		
193	E	1	信越線	国鉄線名	-		
194	E	1	新津	国鉄駅	○		
195	E	1	至会津	地名	-		
196	E	1	三条	国鉄駅	○		
197	E	1	悠久山	栃尾電鉄駅	○		
198	E	1	信越線	国鉄線名	-		
199	E	1	見附	国鉄駅	○		
200	E	1	椿沢	栃尾電鉄駅	-		
201	E	1	上見附	栃尾電鉄駅	○		
202	E	1	至長沢	地名	-		
203	E	2	名晶	栃尾電鉄駅	-		
204	E	2	東明	栃尾電鉄駅	-	「本明」の誤り	
205	E	2	太田	栃尾電鉄駅	-		
206	E	2	上北谷	栃尾電鉄駅	-		
207	E	2	文納	地名	○		
208	DE	2	栃尾電鉄	鉄道線名	-		